

改正

平成20年3月21日条例第4号

平成20年6月25日条例第15号

平成21年6月25日条例第21号

平成22年3月10日条例第6号

平成23年10月1日横書き施行

平成24年6月27日条例第40号

女川町心身障害者医療費の助成に関する条例

(目的)

第1条 この条例は、心身障害者の医療費の一部を助成することにより、心身障害者の適正な医療機会の確保及び心身障害者の経済的負担の軽減を図り、もって福祉の増進に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において「心身障害者」とは、次に掲げる者をいう。

- (1) 特別児童扶養手当等の支給に関する法律（昭和39年法律第134号）に定める特別児童扶養手当の支給を受けている者に監護されている者であつて、その者の障害の程度が特別児童扶養手当等の支給に関する法律施行令（昭和50年政令第207号）別表第3に定める1級に該当するもの
- (2) 療育手帳交付規則（平成12年宮城県規則第102号）に基づく療育手帳の交付を受けている者で、その者の障害の程度がAであるもの（知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）第16条第1項第3号に定める職親に委託されている者で、療育手帳のBの交付を受けているものを含む。）及び身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）に定める身体障害者手帳の交付を受けている者で、障害の程度が身体障害者福祉法施行規則（昭和25年厚生省令第15号）別表第5号に定める1級、2級及び3級（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫及び肝臓の機能障害を有する者に限る。）に該当するもの

2 この条例において「保護者」とは、次に掲げる者で、心身障害者を現に監護しているものをいう。

(1) 父又は母

(2) 父母以外の者でその心身障害者と同居し、かつ、その生計を維持する者（以下「養育者」

という。)

(助成対象者)

第3条 この条例により助成の対象となる者（以下「助成対象者」という。）は、次のいずれかに該当する心身障害者とする。ただし、生活保護法（昭和25年法律第144号）第6条第1項に規定する被保護者及び中国残留邦人等の円滑な帰国の促進及び永住帰国後の自立の支援に関する法律（平成6年法律第30号）第14条により支援給付を受ける者を除く。

- (1) 町内に住所を有する者
- (2) 町内に住所を有しないが、国民健康保険法（昭和33年法律第192号）第116条の2第1項及び第2項の規定の適用を受ける者
- (3) 町内に住所を有しないが、高齢者の医療の確保に関する法律（昭和57年法律第80号）第55条第1項及び第2項の規定の適用を受ける者
- (4) 保護者が町内に住所を有する者で、他の市町村における地方単独医療費助成制度の助成対象とならない者

(助成)

第4条 町は、助成対象者に係る医療費のうち国民健康保険法第42条第1項、高齢者の医療の確保に関する法律第67条第1項又は規則で定める社会保険各法に定める一部負担金（法令の規定に基づく国若しくは地方公共団体の負担による医療に関する給付又は保険者等の負担による高額療養費の支給、高額介護合算療養費の支給及び附加給付の額を控除した額。以下「一部負担金」という。）及び入院時食事療養費に係る標準負担額について、当該助成対象者又はその保護者に助成するものとする。

- 2 前項の規定は、助成対象者が当該療養の給付に代えて医療費を支払った日から2年以内のものに限るものとする。
- 3 前2項に定めるもののほか、特に町長が必要と認めたときは、助成を行うことができるものとする。

(受給資格の登録)

第5条 医療費の助成を受けようとする助成対象者又はその保護者は、あらかじめ規則で定める受給資格登録申請書（以下「登録申請書」という。）を町長に提出し、受給資格の登録を受けなければならない。

- 2 前項の登録は、登録した日以後において最初に到来する9月30日まで有効とする。
- 3 受給資格の登録を受けた助成対象者又はその保護者が当該登録の有効期間の満了後も、引き続き

き医療費の助成を受けようとするときは、規則で定める更新登録申請書（以下「更新申請書」という。）を町長に提出し、受給資格の更新の登録を受けなければならない。ただし、特に町長が認めるときは、更新申請書の提出を省略させることができる。

4 町長は、第1項又は第3項の規定により助成対象者又はその保護者から提出された登録申請書又は更新申請書の審査の結果を当該助成対象者又はその保護者に通知するものとする。

（受給者証の交付等）

第6条 町長は、第5条第1項又は第3項の規定により登録された助成対象者又はその保護者（以下「受給者」という。）に対し、受給者証を交付するものとする。

2 受給者は、登録申請書又は更新申請書の記載事項に変更があったときは、速やかに町長に届け出なければならない。

3 受給者は、登録の有効期間の満了又は転出等の理由により受給資格を喪失したときは、速やかに規則で定める返納届を町長に提出するとともに、受給者証を返納しなければならない。

（受給者証の提示）

第7条 受給者は、医療機関等において助成対象となる療養の給付を受けようとするときは、当該医療機関等に対し、被保険者証又は組合員証とともに受給者証を提示しなければならない。

（助成の申請）

第8条 受給者は、この条例に基づく助成を受けようとするときは、規則の定めるところにより町長に申請しなければならない。ただし、死亡等の事由により受給者が申請することができないときは、受給者に代わって助成対象者を新たに監護する者又は町長が定める者が申請するものとする。

（助成の決定・交付）

第9条 町長は、前条の規定により受給者から申請があったときは、その内容を審査して当該申請に係る助成額を決定するとともに、規則で定める通知書により当該受給者に通知し、助成金を交付するものとする。

（譲渡又は担保の禁止）

第10条 医療費の助成を受ける権利は、他人に譲渡し、又は担保に供してはならない。

（損害賠償との調整）

第11条 町長は、助成対象者の療養の原因となった傷病が、第三者の行為によって生じたものであり、第三者から賠償又は補てんが行われたときは、その価額の限度において助成の全部又は一部を行わず、又は既に助成した金額の全部又は一部を返還させることができるものとする。

(助成金の返還)

第12条 町長は、虚偽の申請その他の不正な行為により、この条例による助成を受けた者がいるときは、その者から当該助成金の全部又は一部を返還させることができるものとする。

(委任)

第13条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日等)

1 この条例は、平成16年10月1日から施行し、同日以後の診療に係る医療費から適用する。

(受給資格の登録等の特例)

2 この条例の規定により心身障害者医療費の助成の対象となる者に係る第5条及び第6条の規定に関する事務は、この条例の公布の日から行うことができるものとする。

(経過措置)

3 この条例の施行の際、現に廃止前の女川町乳幼児及び心身障害者医療費の助成に関する条例の規定によりなされた医療費の助成については、なお従前の例による。

附 則 (平成20年3月21日条例第4号)

この条例は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 (平成20年6月25日条例第15号)

(施行期日)

1 この条例は、平成20年7月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の規定は、平成20年4月1日以後に受診した医療費の助成について適用し、同日前に受けた医療に係る医療費の助成については、なお、従前の例による。

附 則 (平成21年6月25日条例第21号)

この条例は、平成21年7月1日から施行する。

附 則 (平成22年3月10日条例第6号)

この条例は、平成22年4月1日から施行する。

附 則 (平成24年6月27日条例第40号)

この条例は、平成24年7月9日から施行する。